

チョコレートへの支出

- 家計調査（二人以上の世帯・単身世帯）結果より -

2月14日はバレンタインデーです。日本では、バレンタインデーに女性から男性へチョコレートを贈るという習慣が定着していますが、最近では女性が自分用に購入することや友達同士で交換することもあるようです。そこで今回は、チョコレート注への支出についてみてみましょう。

注 平成17年以降のチョコレートの数値については、チョコレート菓子を含んだものとしています。

チョコレートの支出は増加傾向に急ブレーキ

最初に、一世帯あたりのチョコレートの支出金額を、価格の変動分を除き、昭和45年を基準としてみると、45年から61年は、ほぼ横ばいで推移しています。その後、平成12年に支出金額が1.8倍となり、19年は3.8倍まで急激に上昇しましたが、平成22年は3.3倍と低下しています（図1）。

近年は2月の支出割合が高い

次に、年間支出金額に対する月別の支出割合をみると、各年とも夏に支出割合が低く、冬に高いという特徴があります。しかし、支出割合が最も高い月を比較してみると、昭和45年が12月である一方、平成2年と22年の年では2月となっています。バレンタインデーにチョコレートを贈る習慣が定着したことで支出割合が最も多い月が変化したことがわかります（図2）。

34歳以下の女性世帯が最も支出金額が多い

最後に、単身世帯の男女・年齢階級別についてみてみると、全ての年齢階級で女性の支出金額が、男性を上回っています。また、34歳以下の女性世帯の支出金額は、5,867円となり単身世帯の全ての区分で最も多くなっています（図3）。

図1 昭和45年から平成22年のチョコレートの実質金額指数の推移（二人以上の世帯：昭和45年 = 1）

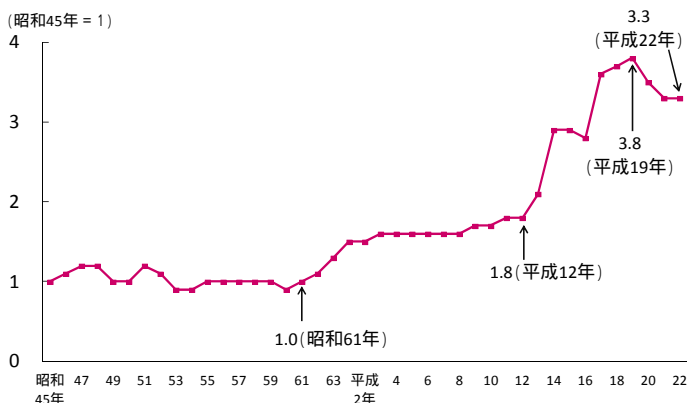


図2 チョコレートの年間支出金額に対する月別割合（昭和45年、平成2年及び22年：二人以上の世帯）

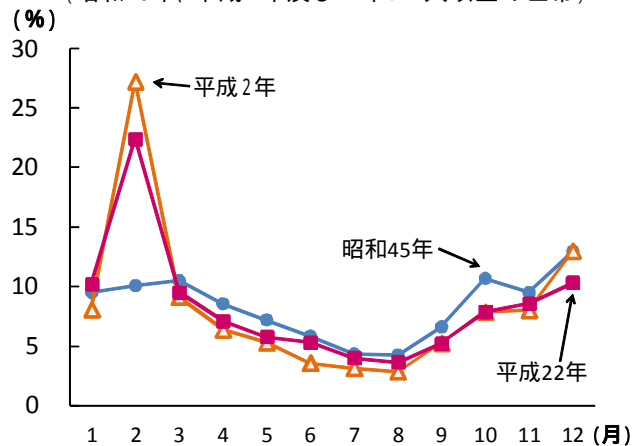


図3 チョコレートの男女・年齢階級別の支出金額（平成22年：単身世帯）

